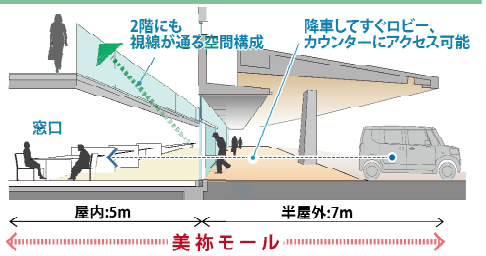
テーマ３.ふらっと立ち寄りたくなる開かれた庁舎

3-01 生活動線の一部となる美祢モール

人と車の新しい関係づくり

・庁舎を日常生活の延長線上にあると感じて頂くためには「近寄りやすさ」の創出が不可欠です。
・自動運転やEV車など、今後のモータリゼーションの進展を視野に入れ、車→美祢モール→窓口がひとつづきとなる来庁者本位の空間とします。
・美祢モールには、雨に濡れない駐車ゾーンや停車ゾーン、巡回バスやタクシーの停留ゾーンなどを設けます。

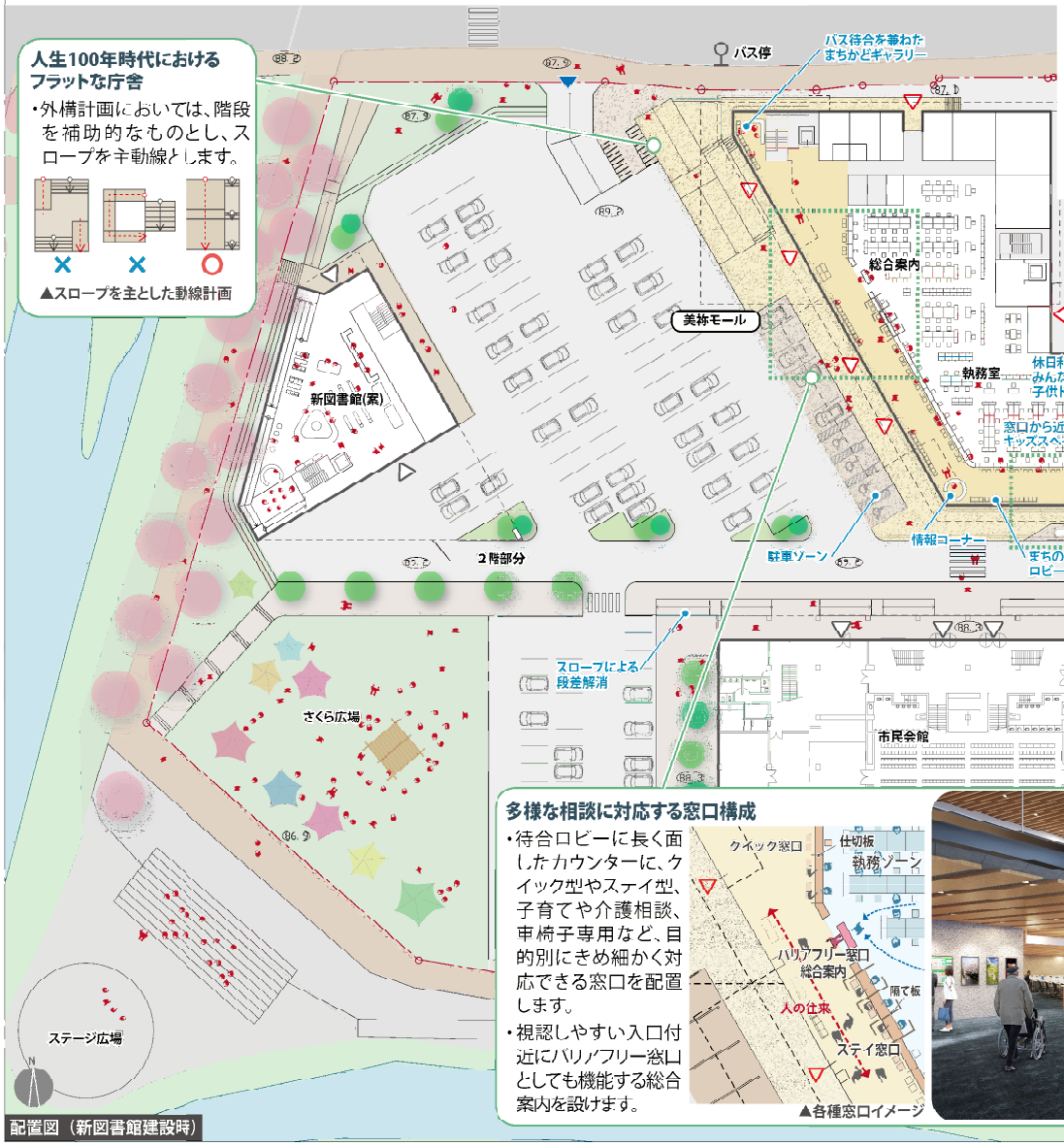


市民のよりどころとなる美祢モールのイメージ

人生100年時代におけるフラットな庁舎

・外構計画においては、階段を補助的なものとし、スロープを主動線とします。

▲スロープを主とした動線計画



配置図（新図書館建設時）

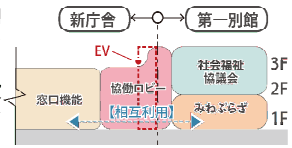
3-02 第一別館を活用した市民活動スペース みねぷらざ

市民活動の新たな拠点　みねぷらざ（第一別館１階）

・現在、ピロティ駐車場としてお使いの第一別館1階を市民協働スペースとして改修することは、市民の方々の愛着と親近性に寄与すると考えます。
・みねぷらざ正面には庇を設け、車いす用と同等のスペースを確保した駐車場を配し、利便性に配慮します。
・内部は様々な催しやWSなどを開催できるホール空間に加え、会議や市民サークル活動にも対応可能な小部屋も併設し、可変性のある計画とします。
・鉄筋コンクリート造であることを活かし、外壁を外断熱改修することも検討します。（テーマ5-01に詳述）

社会福祉協議会(第一別館2、3階)との相乗効果

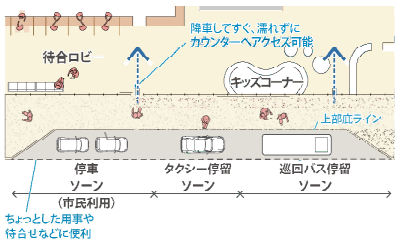
・第一別館の２,３階は、社会福祉協議会とし、現在の市民交流スペースとしての賑わいを損なわず、さらに強化する計画とします。
・新庁舎と第一別館の間にはEVを配した協働ロビーを設け、施設利用者の交流を促します。



多様な相談に対応する窓口構成

・待合ロビーに長く面したカウンターに、クイック型やスティ型、子育てや介護相談、車椅子専用など、目的別にきめ細かく対応できる窓口を配置します。
・視認しやすい入口付近にバリアフリー窓口としても機能する総合案内を設けます。

▲各種窓口イメージ

内部美祢モールのイメージ

多様なニーズに応えるクイックパーキングゾーン